

協働のまちづくり指針（案）に対するパブリックコメント（意見募集）の結果

- ・ 募集期間 平成25年12月20日（金）～平成26年1月20日（月）
- ・ 意見提出者数 4人
- ・ 意見数 5件

番号	いただいた ご意見	回答
①	<p>（該当箇所）：表紙 （意見内容） 「市民と赤磐市と一緒に作成しました」と表記していますが「市民と行政で」の方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。内容を検討し、「市民と行政と一緒に作成しました」に表記を変更します。</p>
②	<p>（該当箇所）：表紙 （意見内容） 子どもたちが「笑顔」で暮らせるまちに と書いてありますが、これだと子ども達に限定されるので「子どもたちも」か「私たちが」か「みんな」に変更するか又は「子どもたちが」を削除して、全ての市民を対象にした表現が好ましいのではないのでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。子どもたちが「笑顔」で暮らすことができる社会は、みんなにやさしい社会であると考えます。次世代へのメッセージや子どもたちへの協働の必要性を表現しており、このままの表現とさせていただきます。</p>
③	<p>（該当箇所）：4ページ 『まちづくり』の範囲 （意見内容） 市民の主体性の<u>下</u>を（もと）にひらがな表記してはいかがでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。内容を検討し、ご意見のとおり、ひらがな表記に変更します。</p>
④	<p>（該当箇所）：4ページ アクションプログラム （意見内容） ■協働の手法を取り入れた具体的事業の例がないのはなぜでしょうか。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。事業の例えとして（協働実践事例集の作成）を記入します。</p>

番号	いただいた ご意見	回答
⑤	<p>(該当箇所)：1もしくは冒頭へ (意見内容)</p> <p>流行語で表現すると、理解できない人が多い、この地である。かつて、合併に先駆け4町のアンケートが実施され、この地域の関心は「住民主体によるまちづくりの推進」を3位以内に選択しなかった。他町はどこも2～3位に選択し意識の差がはっきりと表出している。私はその後の地域審議会答申にあえてこれを必要とし追加したはずである。意識の差とは、この地は、行政依存の体質から抜け出していない。立地条件は無視できないとも考えられるが。そのことを熟知した上で今後の指針を作成願いたい。また、行政主導であろうと住民主導であろうと、協働であろうと、「まちづくり」の最終目的は、「人口の増加」であると学んだ。間接的表現でキャッチコピーを作成するより、直接的な表現で「人口増加」を目指した言葉にしたらどうか。したがって、人口増加に繋がるための情報発信を全国に向けてすること。これが大切だと考えます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。この指針は、市民の皆様が日常生活の中に「協働」への理解と、更なる気づきを得ていただくことを目的に作成しています。今後この指針を積極的にPRすることで「協働」意識を広めていきます。</p> <p>人口の増加に繋がる「住んでみたい!」と思えるまちを築くために「協働」は欠かすことができない「まちづくり」の手法です。既実践されている「協働」をより一層推進していくとともに、「協働事例」の調査や研究を行い、赤磐市の魅力などの情報発信に努めます。</p>